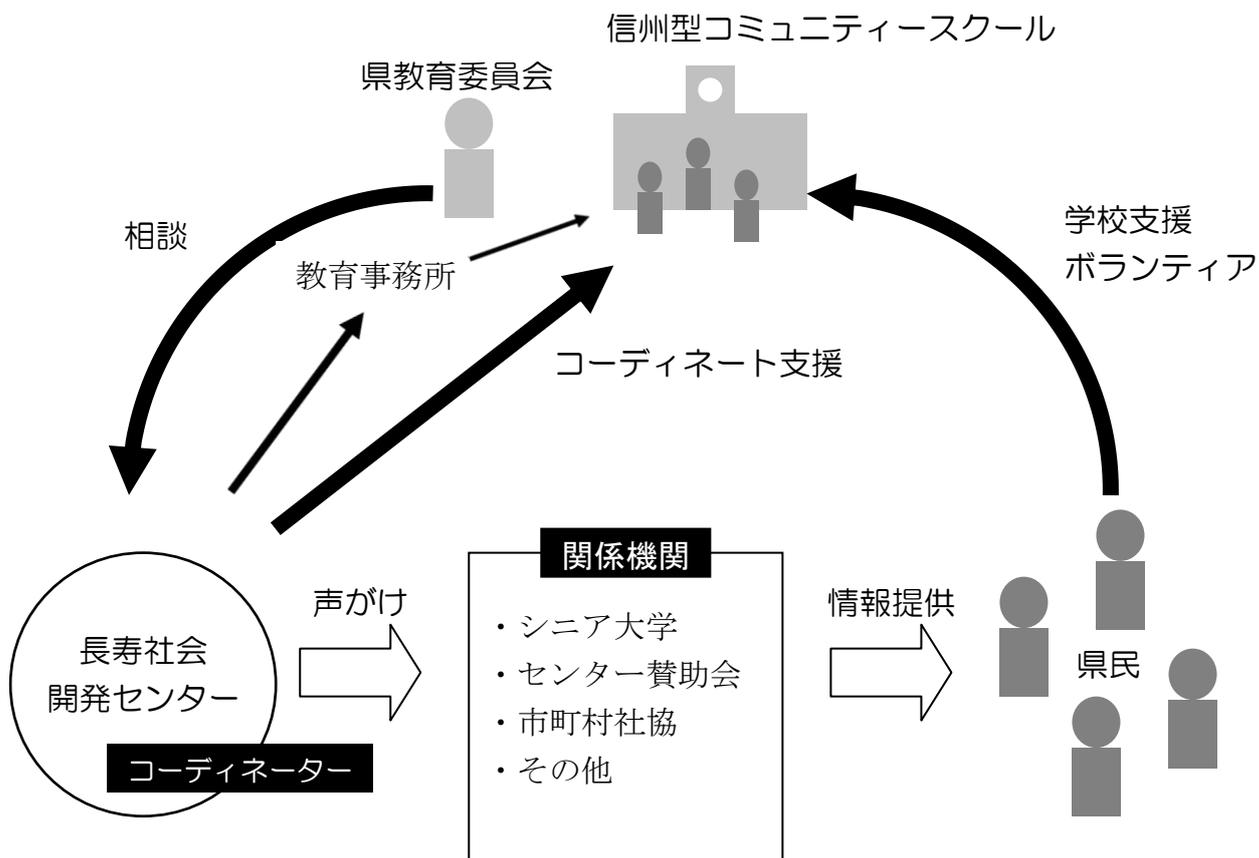


シニア活動推進コーディネーターの活動事例について

(1) 信州型コミュニティースクール等における学校支援ボランティアへのシニア参加	
要 旨	<p>社会が複雑多様化する中で、学校や子どもを取り巻く様々な課題を解決するために、学校や家庭、地域が連携・協力し、地域全体で子どもを育むことが重要となっており、長野県が進める信州型コミュニティースクール事業のような学校と地域住民の協働にシニア層が参加し、地域に開かれた信頼される学校づくりを目指す。</p>
内 容	<p>《県教育委員会が進める信州型コミュニティースクール創造事業との連携》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくりを進めるうえで、長年培ってきた知識や経験等を活かし、また活動時間の視点からも地域の子どもたちの育ちを支える存在としてシニア層の存在が期待でき、これは人生二毛作社会の推進とも趣旨が一致するため信州型コミュニティースクール事業に取り組む学校と連携する。 ・県教育委員会担当者とシニア活動推進コーディネーターは、事業の趣旨、コーディネートを進めるうえでの注意点等を打ち合わせる。 ・教育事務所は学校側への働きかけと立ち上げ支援を行う。 ・コーディネーターは住民、関係機関への働きかけと学校側のコーディネートに関する支援を行う。
具 体 事 例	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア大学の授業で信州型 CS について働きかけをする。そのことにより、意識啓発され、子ども支援の必要性に気づき、活動希望者として受け入れ可能な学校へつないでいる。(お話し相手、木工、マジック、ミシン掛け、物品提供等) ・長寿社会開発センター賛助会・コーディネーターのネットワーク関係機関へも同様の投げかけを行う。(学校行事の記録係、PTA 講演会の記録係りと託児ボラ) ボランティアの推進を担う、市町村社協担当者・市民活動センター等へ働きかけを行い、そこからも発信しているため、実際の活動者になるシニア層は増えてきている。 ・教育事務所及び学校等と連携した信州型 CS 実施へ向けた検討やシニア層の参加のための助言等を行っている。

(図解) コーディネート事例 (1)

信州型コミュニティスクール等における 学校支援ボランティアへのシニア参加

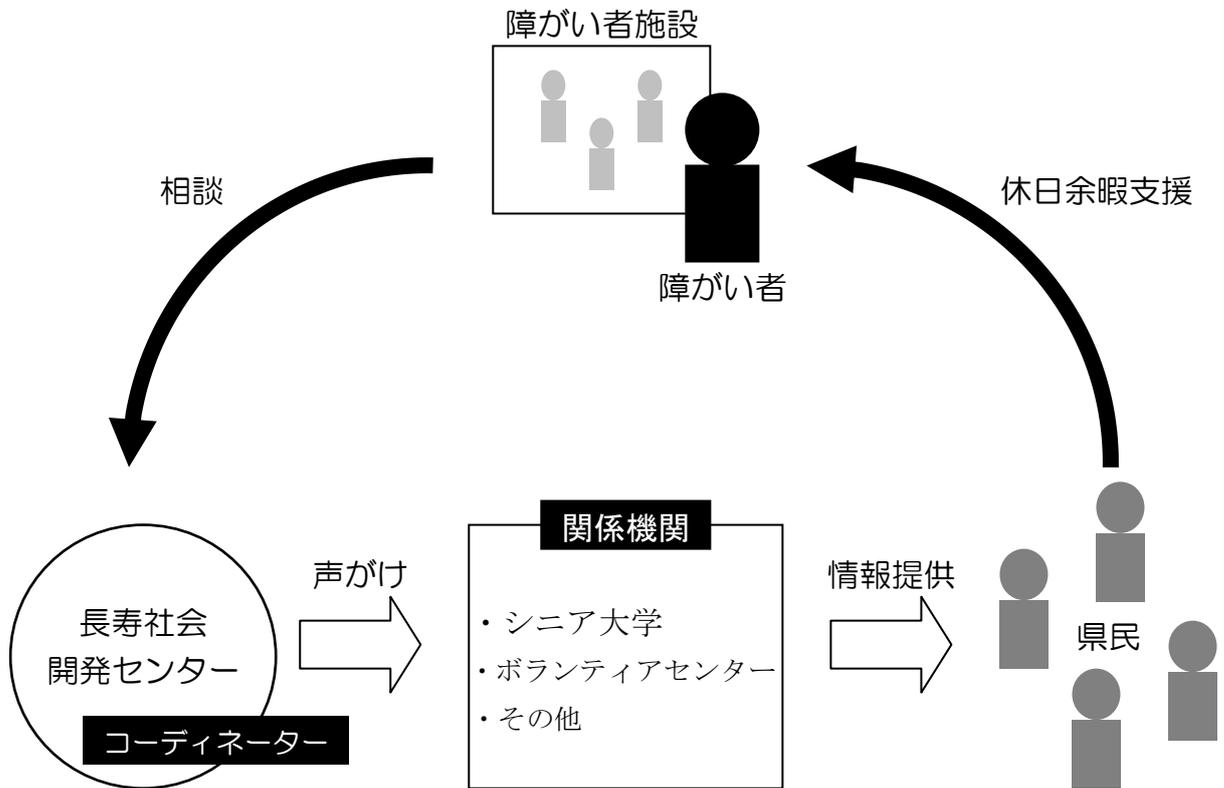


(2) 障害者の休日余暇支援へのシニア参加	
要 旨	障がい者が社会生活を営む上で必要となる外出及び余暇活動等を実現させるための外出（概ね 8 時間で用務を終えることが可能な公共交通機関等による外出）を支援する休日余暇支援にシニアが参加する。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害者施設から、障害者の休日の余暇支援として「移動支援の担い手」を求める相談がある。 ・障害があっても一人の人間として希望する暮らしをすること、家族も自分の暮らしを大切にしていけることが望まれる。 ・平成 15 年から地域移行が始まっているが、現実には多くの施設で移動支援を担っているのは職員であり、本来の仕事外での労働になっている。障害者にとってもより多くの方と関わることで豊かな生活へと結びつくため、シニアの方に呼びかけ、移動支援の担い手を見つけてもらえないか。と相談がある。（※仕事の日時、時間、内容等が不定期的なためハローワークへの求人には出していない）
具 体 事 例	<ul style="list-style-type: none"> ・社協、ボランティアセンター、シニア大に声掛けをしたところ、3 人の方が希望したため、施設へつなぎ、就労につながった。 ・シニア大学の社会参加プログラムの働きかけの成果が障害者施設の職員として就労につながったケースもある。 <p>《相談から企画提案へ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別のコーディネートには限界があるため、シニア層が障害者支援の就労につながるような仕組みが必要と考え、シニア向け移動支援・同行援護者養成研修を、長野市障害ふくしネット*に提案した。 ・移動支援・同行援護については人手不足のためサービスを休止する事業所も出はじめています。障害者支援に関心のあるシニア層がこの仕事を担うことは、障害者の自立生活をより充実したものにできるため研修は前向きに考えたい。（※研修内容：基礎 20 時間 応用 12 時間） ・シニア層でヘルパー資格を有する人材を掘り起こす研修についても障害福祉ネットワークに提案している。

※長野市障害ふくしネット…障がいがあっても地域で自分らしく安心して暮らせるまちづくりを進めていくために、相談支援事業をはじめとして、障害福祉に関するシステムづくりについて、課題解決のための検討や取り組み、施策提言を実施。相談支援事業者、障害福祉サービス事業者、保健・医療関係者、教育・雇用関係者、権利擁護・地域福祉関係者、障害福祉関係団体等から構成されている。

(図解) コーディネート事例 (2)

障がい者の休日余暇支援へのシニア参加



(3) ハローワーク事業への提案と関係機関の連携	
要 旨	<p>受講者が減少しているシニアワークプログラム事業（SP 事業）※について新たなプログラムの提案と関係機関との連携の検討。</p> <p>【関係機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク諏訪 ・長野県シルバー人材センター連合会（SP 雇用・就業機会確保推進員） ・長野県長寿社会開発センター（シニア活動推進コーディネーター）
具 体 事 例	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センター等が実施する SP 事業では参加希望者が減少するとともに終了者の就労率も低下傾向にあり、対応が必要との報告あり。 ・ハローワークからシニアの求人・求職の現状や就労率の高い県のプログラムなどについて情報提供があり、関係機関で分析。 ・ハローワーク・シルバー人材センター・長寿社会開発センターが、SP 事業の新たなプログラム内容について検討し、地域性を活かした観光、農業分野などのプログラムについて今後連携して取り組むことになる。 ・コーディネーターからは、 <ul style="list-style-type: none"> ①リタイアシニアのカムバック採用での就労とシルバー人材センターへの企業登録促進 ②退職前のプラチナインターンシップ（制度）の仕組みづくり ③退職後のシニアワークプログラム参加促進 <p>を商工会議所との連携で進めることを提案。前向きに検討することとなる。</p>

※シニアワークプログラム地域事業（SP 事業）

高齢者の雇用・就業機会の確保を促進するため、55 歳以上の高齢求職者等を対象に、地域の事業主団体、開催地のシルバー人材センター等の参画・協力の下、雇用を前提とした技能講習、講習修了後の面接会を一体的に行い、講習修了者の就職活動を支援するもの。

公益社団法人長野県シルバー人材センター連合会が、厚生労働省の委託を受けて実施。

【受講対象者】

- ・就職を希望する長野県内在住の 55 歳以上の方（介護講習は、開催地域在住の方）
- ・ハローワークにおいて求職登録をした方

(図解) コーディネート事例 (3)

ハローワーク事業への提案と関係機関の連携

